

葛尾村には素敵な 4つの愛がある

最終号(第17号)



今後は 新5つの愛で



「出会い」は「出愛」。一人一人との出会いを大切に

出愛

ふれ愛



助け愛

学び愛



目を離して、
心を離さず

手を離して、
目を離さず。



“ふれあい”は、子どもたちに勇気と思いやり、耐性を育む

“愛”を受け取った人は、“愛”を与える人になる



子どもたちと
ともに笑い
ともに夢を
語り合いましょ



そして、認め愛



人は、夢を育て

夢は、人を育てる

夢を持って生きる大人の姿が

子どもたちにも、勇気と自信を

誇りと夢を育てていくのです

ともに夢を語り合いましょ



「言葉は生きている」ことを十分に噛みしめて

私が出会った4つの愛



たくさんの愛、見つけたよ

葛尾小学校一年 杉本 彩さん

松本 桃 佳さん

佐久間 夏夕子さん

小学校・中学校のおにいさんおねえさんと、なわとびをしたよ。やさしくおしえてくれたから、じょうずにとべるようになってうれしかったよ。みんなはやくはいるからびっくりした。わたしたちもおなじようにとべるようになりたいな。

ようちえんのレストランごっこにしようたいされたよ。いろいろなりょうりがあつてわくわくしたよ。おみせやさんのおしごと、じょうずだったよ。

かぞくのみんな、いつもわたしたちのためにありがとう。しゅくだいを見てもらえて、うれしいよ。はしりかたのコツをおしえてもらって、はやくはしれるようになったよ。お手つだいをすると、よろこんでもらえてうれしかったよ。これから、いっぱいお手つだ

いするね。

もりもりランドのみなさん、あんないしてくれてありがとうごさいます。どんぐりとまつぼっくりがたくさんひろえて、うれしかったです。またいきたいです。アスレチックができるのがたのしみです。ジェットコースターができるといいな。

もつともつとかつらお村の人たちとなかよくなりたいたいです。



「認め愛」を加えて「新5つの愛」へ

てんびよう 天平 ひいな のをとめぞ立てる しゅうおうし 雛かな (水原秋桜子)



三月になりました。子どもさんの健やかな成長を願って、かわいいひな人形を飾っているお宅も多いことでしょう。

さて、今年、これまでの4つの愛(出愛・ふれ愛・助け愛・学び愛)に「認め愛」を加えて「新5つの愛」とし、誰もが生き生きと学び輝く、よりよい村の実現を目指します。多様性に寛容で差別のない、共に助け合う地域社会をめざしたいと考えています。大きくても小さくても、多くても少なくても、幸せをめざすのはいっしょです。一人ひとり、一つひとつをかけがえのない存在として尊ぶこと。本村が育んできたこれらの「愛」を大切にしていけることが、豊かな人間関係を築くとともに、自分自身を磨き、広げ、豊かな生活を育んでいくことにつながり、それは、お互いの幸福にもつながると考えるからです。

「新5つの愛」を、どうぞよろしく願いいたします。

葛尾村教育委員会教育長 小野田 敏 之

ふくしまジュニアチャレンジ



「地域の宝」を守り、発信する活動とアイデアをたたえる福島民報社の「第4回小中学生まちづくり大賞（ふくしまジュニアチャレンジ）」の受賞者が決まった。グランプリには、全線再開通を前にした只見線の全駅を自転車で巡り、活性化策を行政に提案した只見町の明和小6年・角田杏（あん）さん（活動部門）、葛尾村特産の凍（し）み餅のおいしさを伝えるレシピを開発した葛尾中（代表・伊藤愛佳（あい）さん（3年））（アイデア部門）が選ばれた。（9面に講評、9～11面に受賞者紹介、24・25面に関連記事）

【活動部門】

クランプリ	
角田杏（明和小6年）	（只見）
福島民報社賞	
山上小相馬土垂を守る会（相馬）	
金賞	
山木屋中ふる里やまきや科	（川俣）
江川小	（下郷）
銀賞	
野菜食べ隊ベジレンジャー（若松二中）	（会津若松）
伊達崎小5年	（築折）
銅賞	
小浜小4年（小浜たんけんたい）	（二本松）
フルティーナ5（福田小5年）	（新地）
関根心桜（鮫川中1年）	（鮫川）
都路小6年	（田村）
只見中SDGs委員会	（只見）
金山小4・6年	（金山）
亀田ゆう（福島四中1年）	（福島）
広野中2年	（広野）
桜の聖母学院小（パワフル4年生）	（福島）
開成小5年	（郡山）

※敬称略、各賞内の並びは応募順

【アイデア部門】

クランプリ	
葛尾中	（葛尾）
福島民報社賞	
菜根藩（薫小4年・佐藤豪太）	（郡山）
関辺小5年「旗宿5人組」	（白河）
金賞	
高崎陽路（郡山中2年）	（郡山）
高崎 董（桑野小6年）	（桑野）
渋川小4年（菊人形）	（二本松）
小林乃野佳（原町二中2年）	（南相馬）
銀賞	
川崎敬広（ふたば未来学園中1年）	（広野）
釣師ガレイ（駒ヶ嶺小5年）	（新地）
遊海しんち（駒ヶ嶺小5年）	（新地）
星遥人（原町二中3年）	（南相馬）
桜の聖母学院小（未来につなげ信夫山）	（福島）
銅賞	
LET's GO! 5年生（さくら小）	（北塩原）
渋川小4年（和菓子）	（二本松）

ジュニアSDGs賞

ドライ7（稲田学園）	（須賀川）
------------	-------

※敬称略、各賞内の並びは応募順

もっくん壊滅員（石川義塾中1年）	（石川）
横沢沙真（吾妻中3年）	（福島）
加藤萌々香（吾妻中3年）	（福島）
熊谷波来（吾妻中3年）	（福島）
佐藤すみれ（吾妻中3年）	（福島）
佐藤由奈（吾妻中3年）	（福島）
渡辺りこ（吾妻中3年）	（福島）
尾形結唯（吾妻中3年）	（福島）
米田和奏（吾妻中3年）	（福島）
柳田弦輝（吾妻中3年）	（福島）
関辺仲良し6年生（だるま）	（白河）
関辺仲良し6年生（小峰城）	（白河）
関辺仲良し6年生（南湖公園）	（白河）
目黒心望（尚英中2年）	（新地）
会津のお米調査隊（会津若松ザベリオ学園小）	（会津若松）
桜の聖母学院小（福島市遊び部）	（福島）
桜の聖母学院小（福島温泉支援部）	（福島）
桜の聖母学院小（ゆめいろの食）	（福島）

福島北ロータリークラブ賞

桜の聖母学院小（信夫山わらじまつり）	（福島）
--------------------	------

アイデア部門

葛尾中

「凍み餅レシピ考案」

クランプリ

活動部門

角田杏さん

（只見小）

「只見線活性化提案」

福島民報

2022（令和4）年
12月20日
火曜日

発行所
福島民報社
福島市太田町13-17
（郵便番号960-8602）
電話代表（024）531-4111
編集局531-4122 広告局531-4153
事業局531-4173 販売局531-4175
購読のお申し込み
☎0120-373437

民報

「地域の宝」を守り、発信する活動とアイデアをたたえる福島民報社の「第4回小中学生まちづくり大賞（ふくしまジュニアチャレンジ）」の受賞者が決まった。グランプリには、全線再開通を前にした只見線の全駅を自転車で巡り、活性化策を行政に提案した只見町の明和小6年・角田杏（あん）さん（活動部門）、葛尾村特産の凍（し）み餅のおいしさを伝えるレシピを開発した葛尾中（代表・伊藤愛佳（あい）さん（3年））（アイデア部門）が選ばれた。（9面に講評、9～11面に受賞者紹介、24・25面に関連記事）



角田杏さん（只見・明和小）



伊藤愛佳さん（葛尾中）

県内全域の小中学校から活動部門に165件、アイデア部門に121件の計286件の応募があった。受賞者は「表」の通りで、活動部門はクランプリ1件、福島民報社賞2件、金賞3件、銀賞5件、銅賞20件の計31件が選ばれた。今回、新たに設けたジュニアSDGs賞と福島北ロータリークラブ賞には、それぞれ1件が選ばれた。

活動部門クランプリの角田さんは、沿線に絶景が広がる只見線を地域の宝と考えた。2020（令和2）年から利用促進を目指した。アイデア部門クランプリの葛尾中は古くから村内に伝わり、住民に親しまれている凍み餅を古くから伝えている。今年夏活動を始め、今年夏休みを利用して、同線の36駅を自転車で回った。訪問先で出会った人にインタビューを重ね、「まず地元住民の乗車機会を増やすべきだ」とする報告書をまとめ、県と只見町に提出した。

若い世代

ふるさと創造学 葛尾の魅力発信

葛尾村・伊藤 愛佳（中学生15）

双葉郡8町村の小中学生、高校生が参加する「ふるさと創造学サミット」が開催された。対面で行われるので楽しく交流したいと思い、葛尾村の特産品凍（し）み餅と他の

町村の特産品のコラボメニューを考えてもらう企画にした。

授業で、凍み餅とホットケーキミックスを混ぜた「凍みモッフル」や、たこ焼き器で仕上げた「凍みボール」を考案してきた。この機会に双葉郡の特産品とコラボすることになった。当地メニューを誕生させたいと思ったのがきっかけだ。

当日は七つの町村の中学生が参加し、「凍みクレープ」、「マミー凍み餅」、「バナナとイチゴを合わせた凍みモッフル」、「ハーブ鶏の凍み餅雑煮」、「じゅうねん凍み餅」などさまざまなメニューが出た。これらは家庭科の時間に再現する予定だ。貴重で有意義な交流となった。少しでも葛尾村に興味を持ってもらいたい。

餅を古里のシンボルと捉え、全国へ広める方策を練った。長期保存が可能なため、災害時

に備える非常食としての活用を知恵を絞った。ワッフル風の「しみ餅」を独自に考案し、学校新聞で発信した。

などのスイーツ、せんべいなどのメニューを

ふくしまジュニアアチャレンジ 受賞者・団体紹介

若い世代

「葛尾川」大好き
大切に歌い継ぐ

葛尾村・松本 彩楓
(中学生 14)

先日のあぶくま抄に葛尾村のことが書かれていました。「葛尾川」という私の大好きな曲についてでした。

葛尾川は私の家の近くを流れているので、たびたび見に訪れます。きらきら輝き、アメンボが気持ちよさそうに水面をすいすい泳ぐ光景に癒やされます。

その葛尾川の歌詞を書いた先生の話を聞きました。私の父は中学時代、その先生に国語を教わったそうです。そして私が小学2年の時の担任の先生が、その作詞をした先生の奥さんでした。なんだかつながりと深い縁を感じています。

葛尾川は幼小中の合同運動会や文化祭でもよく流され、みんなで輪になって曲に合わせて踊りました。作詞された先生に届くように、これからもずっと村民である私たちが大切に思いながら歌い続けたいです。

活動部門

只見線の活用方法などを提案した角田さん



JR只見線の全線再開通を控えた7月30、31の両日、沿線の全36駅を自転車で巡った。旅の途中で出会った人に只見線への思いなどを取材。まとめた報告書は利活用に生かしてもらおうと県や只見町に提出した。

アイデア部門

葛尾村特産の凍み餅が非常食となる点を村内外に伝える葛尾中の生徒



葛尾村特産の凍(し)み餅が非常食となる点を村内外に広めたいと願っている。おいしさも伝えようと、考えたレシピを「葛尾中学校新聞」にまとめ、村復興交流館あぜりあに掲示。防災意識高揚や特産品の魅力発信に努めた。

非常食「凍み餅」広める

アイデア部門・グランプリ

葛尾中 (葛尾)

葛尾村の特産品「凍り組みの成果が認めら(し)み餅」が非常食となる点を村内外に広め、アイデア部門でグランプリに輝いた。代表を務める3年生の伊藤愛佳さん(15)は「取

てもらうのを意識した「しみモッフル」「凍み餅チーズ煎餅」などの作り方を「葛尾中学校新聞」にまとめた。村復興交流館あぜりあに掲示し、防災意識の高揚や特産品の魅力発信に努めた。

「あやか」さん(14)は「凍み餅の良さを多くの人に知ってもらえたらと思う」と手紙を語った。現在もレシピ開発を継続し、発信力をさらに強化していくという。1年生の松本晴樹さん(12)は「今後も活動を続け、村に元気を与えていきたい」と意気込んだ。

柔軟発想で後押し



凍み餅の魅力発信に向けて話し合う葛尾中の生徒

若い世代

双葉郡の絆確認

葛尾村・伊藤 愛佳
(中学生 14)

双葉郡八町村の小中学生、高校生が集まり自校の取り組みを発表する「ふるさと創造学サミット」がオンラインで行われた。

葛尾中は今年度「健康

づくり」をテーマに活動してきた。体を丈夫にすることはもちろん、心を健やかな状態にすることも大切だと考えた。そこで、村民のみなさんを笑顔にするため施設での掲示物の展示、絵手紙の送付や新聞への意見投稿を行った。私たち子どもの元気な姿を発信することで、村民のみなさんの笑顔を増やしたいと思ったからだ。

サミットではお年寄りを笑顔にするアイデアを他校生と共に考え、意見交換した。全校生徒が四人しかいない私たちでは思いつかない意見が飛び交い、有意義な時間となった。

簡単な運動に取り組んだりお花を贈る、昔遊びをするなど試したいアイデアをたくさんもらった。オンラインのため直接は会えなかったが、一つのテーマについてみんなで考えられたことは、

「福島民報」
R3.12.16(木)